

雜 錄

目 次

大東亞戰爭日記…………… 477
 新刊雜誌記事參考目次…………… 477
 業界雜報…………… 479

大東亞戰爭日記摘要

昭和 18 年 3 月 27 日 海軍省公表 昭和 17 年 5 月 31 日豪洲シドニー港及びバダガスカル島デイゴ・スワレス灣の英國艦隊奇襲に成功せる第二次特別攻撃隊員 10 名の二階級進級発表せらる。

任海軍中佐 海軍大尉 秋枝三郎, 同中馬兼四, 同松尾敬宇, 任海軍少佐 海軍中尉 伴勝久, 任海軍大尉 海軍少尉, 岩瀬勝輔, 任海軍特務少尉 海軍一等兵曹 竹本正巳, 同大森猛, 同芦邊守, 任海軍兵曹長 海軍二等兵曹 高田高三, 同都竹正雄

昭和 18 年 3 月 29 日 大本營發表 1. 帝國海軍航空部隊は 3 月 28 日ニューギニア島, オロ灣を攻撃, 上空警戒中の敵戦闘機群と交戦その 19 機を撃墜, 更に 8000 噸級輸送船 1 隻, 5000 噸級輸送船 隻, 驅逐艦 1 隻, 哨戒艇 1 隻を撃沈せり。我方の損害自爆及未歸還 3 機, 2. 帝國海軍部隊は 3 月 27 日熱田島西方海面を行動中の巡洋艦 2 隻及驅逐艦數隻よりなる敵艦隊を發見直ちにこれを追撃甲巡 1 隻に大損害を與へ, 乙巡 1 隻, 驅逐艦 1 隻を小破せしめたる後敵を東方に潰走せしめた。3. 帝國海軍部隊及海軍機は 3 月 15 日より同月 27 日迄に敵潜水艦 4 隻を撃沈した。

昭和 18 年 3 月 30 日 大本營發表 帝國陸軍航空部隊は 3 月 27 日チャッタゴン南方 100 キロ, コックスバザー及モンドウ附近の敵船舶を攻撃し, 1000 噸級敵輸送船 5 隻, 500 噸級 6 隻に大損害を與へた外, コックスバザー埠頭を爆砕し, 遊撃して來た敵發行機 6 機を撃墜した。

昭和 18 年 4 月 1 日 情報局發表 東條總理大臣は滿洲國皇帝陛下の御機嫌を奉伺し, 同國の過去 10 年間に於ける飛躍的發展を祝福し且つ大東亞戰爭勃發以來寄せられつゝある。全面的協力に謝意を表すると共に同國首腦部と親しく懇談を遂げ併せて現地諸機關の狀況視察を行ふため昨 31 日東京發本 1 日午後 3 時 45 分新京に到着した。

昭和 18 年 4 月 3 日 大本營發表 帝國海軍航空部隊は 4 月 1 日ソロモン群島ルツセル島方面に進撃, 敵戦闘機群を捕捉し, その 47 機を撃墜した。我方の損害自爆及未歸還 9 機。

昭和 18 年 4 月 8 日 1. 國府わが支援に答禮のため特派大使陳公博氏を派遣す, 2 帝國陸軍部隊は印緬國境附近アキヤブ北方地區に占據し, 昨年 12 月下旬以來英印軍二個師團の攻撃を撃砕しつゝありしが, 3 月上旬攻勢に轉じ大包圍作戰に依りマユ河畔敵主力を捕捉撃滅し殘敵掃蕩中にて米英反攻ビルマ奪回の夢粉碎せらる。

昭和 18 年 4 月 9 日 大本營發表 帝國海軍航空部隊は 4 月 7 日大舉ソロモン群島フロリダ島方面の敵艦船を強襲し。巡洋艦 1 隻, 驅逐艦 1 隻, 輸送船 11 隻を撃沈, 輸送船 2 隻を大破 1 隻を小破し, 敵機 37 機を撃墜した。我方の損害自爆 6 機。(本海戦をフロリダ島沖海戦と呼稱す)

3 月中開催工業品規格統一調査會名並に其の議題…………… 481

昭和 18 年 4 月 13 日 大本營發表 1. 帝國海軍航空部隊は 4 月 11 日ニューギニア, オロ灣方面の敵艦船及び航空機群を攻撃し輸送船 3 隻, 驅逐艦 1 隻を撃沈, 戦闘機 21 機を撃墜した。我方の損害自爆及未歸還 6 機。2. 帝國海軍航空部隊は 4 月 12 日ポートモレスビーを攻撃し, 輸送船 1 隻を撃沈, 敵機 28 機を撃墜, 大型小型 10 數機を地上撃破し, 又軍事施設兵舎等を撃碎した。我方自爆 5 機。

昭和 18 年 4 月 16 日 大本營發表 帝國海軍航空部隊は 4 月 14 日敵輸送船團のニューギニア, ミルン灣來着を偵知し, 大舉之を襲ひ。

撃沈 輸送船 4 隻, 大破炎上後沈没 輸送船 7 隻, 撃破小艦艇數隻 撃墜 44 機, 地上撃破 10 數機, 其の他軍事施設 5 箇所爆破炎上, 我方の損害自爆 5 機。

新刊雜誌記事參考目次

航空研究所報告 第 18 卷 第 12 册 第 242 號 昭和 17 年 10 月
 氣筒内燃焼瓦斯溫度に關する實驗的研究
 栗野誠一, 中島桂太郎, 河村龍郎

地質調査所彙報 第 106 號 康徳 9 年 6 月 1 日
 櫻桃園東方揚耳山地域の縞狀鐵礦と其の粘結構造に就いて 淺野 五郎 1
 鑛石中の鑛物結晶粒子の大きさに就いて 仲澤 雪男 23
 豆滿層の地質時代に就いて 港 正雄 47

地質調査所彙報 第 107 號 康徳 9 年 12 月 1 日
 北票炭田及び其の周邊に發達する中世層の一二の事實に就いて 西田 彰一 1
 鹿道のサイエル岩と高寺臺の蛇紋岩との化學成分 淺野五郎, 山上登志雄 52
 選鏡顯微鏡的研究に就いて 中澤 雪男 59

化學研究報告 第 10 號 昭和 17 年 6 月
 魚油とエチルアルコールとの反應に就いて(補遺) 松本常太郎 11
 伊豆大島産椿油の特數 同 13
 烏欖油の特數 同 14
 猪油の特數 同 15

化學研究報告 第 6 號 昭和 17 年 5 月
 糠油の精製 第一アルカリ中和法 松本常太郎 1
 同 第二報有機溶材併用アルカリ中和法 同 6
 同 第三報溶劑に依る遊離酸除去方法 同 8
 同 第四報減壓加熱蒸氣に依る遊離酸除去方法同 14
 同 第五報遊離酸とグリセリンとの化合に依るグリセライドの合成法 松本常太郎 15

市販糠油, 試製せる精製糠油並に糠サラダ油の特數に就いて 松本常太郎 20

油脂及蠟の屈折率の補正に就いて 同 31

化學研究報告 第9號 昭和17年5月

油脂の不飽和物の定量に就いて 松本常太郎 40

油脂の試験規格に使用する粘度計の恒數に就いて 同 36

油脂の六臭化物の試験に就いて 同 42

日本金屬學會誌 第7卷 第2號 昭和18年2月

コバルトの變態並に電着コバルトの結晶構造に就いて 田中晋輔, 三津木力 51

18:4:1 高速度鋼の衝擊値 川口寅之輔 57

高速度鋼の熱浴焼入に就いて 大和久重雄 61

鋼の酸洗脆化並に脆化防止劑に就いて(第1報)(I) 三井 三郎 61

硬度測定に對する考察 菊池 麟平 84

稀有金屬の現況(III) 伊藤 尙 39

高級電弧熔接に於ける熔接部の異常破壊現象(II)(翻譯) 75

化學研究報告 第8號 昭和17年3月

アルミニウム熔解滓の研究(第一報)アルミニウム再生地金及熔解滓の組成 山本勇三, 稻田英雄 1

同(第二報)アルミニウム殘灰中可溶性アルミナ定量 高法研究附, 再生アルミニウム地金分析法 山本勇三, 稻田英雄 4

同(第三報)熔解滓掃高法改善に關する研究 山本勇三, 稻田英雄 14

同(第四報)アルミニウム殘灰の水箆に關する研究 同 同 19

同(第五報)アルミニウム殘灰より耐火材料の製造に關する研究 同 同 25

ニツケルの迅速容量分析法 稻田 英雄 31

土木學會誌 第29卷 第3號 昭和18年3月

隧道内の氣流に關する理論的考察 村山 朔郎 215

軸線を包む面に垂直なる荷重を受ける圓形梁の研究 岡本 舜三 241

簡單なる木製單桁橋に就いて 中村 清 278

電氣製鋼 第19卷 第3號 昭和18年3月

鋼中の窒素迅速定量法の研究 外村徳三, 吉井周雄 107

アンチモニー鍍金に就いて 加瀬 勉 115

鋼材の検査法(其の4)三段削疵見試験 野田 一六 122

電氣評論 第31卷 第3號 昭和18年3月

科學技術に於ける人的規正 松田長三郎 129

地學雜誌 第55年 第649號 昭和18年3月

コロラド州 Uncompahgre 地方に於ける鑛床と地質構造との關係 岩生 周一 715

製鐵研究 第182號 昭和18年1月

光高温度の補正に關する一考察 田所芳秋, 須賀音吉 87

海南島木材の乾溜試験結果に就いて 田澤敏次郎, 矢毛石榮造, 北村格三郎 106

珪石煉瓦用モルタルに關する提案 豊田 勇 109

熔鑛爐に於ける物理化學(主として酸化鐵の還元) 115

脱酸劑としてのマグネシウムに就いて 益田 義三 125

發送電 第3卷 第3號 昭和18年3月

アルミニウムの話 小山熊治郎 11

衛生工業協會誌 第17卷 第2號 昭和18年2月

暖房用鑄鐵網の強壓通風試験 谷 甚之助 55

技術評論 No. 241 昭和18年2月

多量生産と注文者の心得 朝倉 希一 12

アルミニウム電線について 山崎 喜雄 15

日滿支石炭時報 第34號 昭和18年2月

大東亞戦下に於ける常磐炭業の使命 清宮 一郎 9

大東亞戦下に於ける臺灣炭業の使命 今川 淵 10

戦時下に於ける朝鮮炭業の使命 高濱 保 15

樺太石炭鑛業の發展と其の使命 川崎 龜吉 17

大東亞共榮圈より見たる炭質問題 鶴見志津夫 23

大東亞共榮圈に於ける石炭の有效利用策(二) 辻元謙之助 32

工場熱管理の狀況と其の活用 木村 季治 54

朝鮮鑛業會誌 第26卷 第2號 昭和18年2月

炭礦爆發豫防に就いて 中 安信 1

東邊道大龍鐵山産赤鐵鑛の還元實驗 國弘 勳, 栗栖朝人 17

アナヂウム(其五) 金 鐘 遠 61

ダウオイ地方地質と鑛床第二編タングステン 三本杉巳代治 71

金鑛脈中の重石に就て(三本杉) 83

探鑛冶金 第21年 第3報 昭和18年3月

埼玉縣空龍鑛山に於ける電氣探鑛結果に就いて 松原厚, 谷田儀三郎 79

稀有金屬に就ての概要(11) 津田 昌利 84

米國に於ける主要非鐵金屬鑛産地域と造山帶 誌 正文 90

九州鑛山學會誌 昭和18年2月

理研瓦斯檢出器光源用乾電池をキャップランプ蓄電池より取る装置の考案に就て 五郎丸孫定 47

瓦斯爆發豫防上爆發瓦斯の排除に關し現場係員の注意並に實施すべき事項 51

朝鮮及び滿洲のマンガン鑛床 97

高爐用送風機に就て 井上 克巳 80

金屬 第13卷 第3號

タングステンを含む非鐵合金, タングステンを含有する工具用合金及び耐酸合金に就て解説, 不二越研究所 川口寅之輔 157

稀有金屬の精鍊と用途 ベリリウム-リチウム-インデウム-ワナヂウム-ガリウム 西村 秀雄 165

特殊金屬に重要性に就て 向山 幹夫 169

鑄物 第14卷 第12號 昭和17年12月

製鋼用銅塊鑄型の使用生命に及ぼす含銅の影響 小川雷太郎 537

原料配合計算に就ての一考察シルジン青銅に及ぼすカルシウムの影響並に之が除去法に就て 金田 義夫 560

技研 第3卷 第1號 昭和18年1月

分光分析法並びにその鐵鋼分析への應用に就いて 松原 隆 1

特殊鋼の肉眼的砂疵と清淨度との關係 高島徳三郎 22

水壓機器に關する考察 山田 千春 33

ドリルパイプの腐蝕疲勞(V) 柏原 方勝 43

工業國策 第6卷 第3號 昭和18年3月

鋼材鋼管の戦時規格に就て	絹川武良司	11	金屬材料	67
大東亞資源と原料規格の再検討	武井 武	16	電氣學會雜誌 第 63 卷 第 3 册 第 656 號 昭和 18 年 3 月	
戦時規格と鋼管	藤井 鐵造	17	和田, 中江: 珪素鋼板の磁歪に就いて	202
金屬資源の不足と戦時特殊鋼対策	渡邊 三郎	29	電氣化學 第 11 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月	
稀有金屬の不足と高速度鋼	正木 康作	32	耐アルカリ鑄鐵に関する研究 (第 1 報)	
鍛造業の原價計算の爲に	大浦 威	37	武井武, 向正夫, 吉田正次, 小林正治	1
鑛産増強と勞務者の規律訓練	松原 寛	55	液體の構造と諸性質 (II)	向坊隆 21
工業國策 第 6 卷 第 3 號 昭和 18 年 3 月鑛産増強			電氣化學 第 11 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月	
と勞務者の養成	村西 辰雄	59	金屬の電氣傳導理論 (II)	河合 紀雄 26
造船協會雜誌 第 250 號 昭和 18 年 1 月			低品位クロム鋼石冶金に関する懇談會	33
薄肉曲板の挫屈に就て		21	日本鑛業會誌 第 56 卷 第 695 號 昭和 18 年 3 月	
Proceedings of the Imperial Academy, February, 1943.			佛印鑛業情勢	中川 維則 97
Vol, XIX No. 2.			三川坑開鑿に就いて(日本鑛業會熊本大會に於ける講演)	
T. Kobayashi, I. Yosimura, Y. Iwaya and T. Hukasawa:			川上 龜郎 106	
Geologic Structure of the Western Part of the Limestone			接解角と浮遊選鑛との關係(II)	岡田丈五郎 113
Plateau in South Kogen-do. Brief Notes on the Geologic			米國鑛山局の事業概要	130
History of the Yokusen Orogeucic Zone, IV.		89	北海道日高國幌滿鑛山産コバルト鑛物	131
旅順工科大学紀要 第 15 卷 第 4 號 昭和 17 年			日本機械學會誌 第 46 卷 第 312 號 昭和 18 年 3 月	
安東省鳳城縣林家臺鑛山の地質及び鑛床	藤本 龍彦	1	撓壁に設けた側室内の渦の平衡	152
全ハガネ商聯盟會報 第 5 卷 第 2 號			摩擦ポンプの抗力を流路の實驗力から求める算式	183
昭和 18 年 2 月			日本機械學會誌 第 46 卷 第 372 號 昭和 18 年 3 月	
鐵鋼統制會の機構改革		18	質量力の作用する 2 次元問題と平板曲げ問題の相似性	156
日本化學總覽 第 2 集 第 17 卷 第 1 號 昭和 18 年 1 月治			高速ターゼル機關の損失馬力	157
金. 金相. 學金屬加工		104	燃焼ガスの比熱及び全熱量	158
滿洲及技術 紀元 2603 年 3 月號 昭和 18 年 3 月			調査彙報 第 2 卷 第 4 號 (通卷第 28 號) 康徳 9 年 10 月號	
札來諾爾褐炭と硬化炭工業	森川清, 阿部良之助	431	熱處理工場の自然換氣排煙に関する模型實驗	135
石灰石及苦灰石の利用に就いて(承前)	山崎 長七	440	厚板及中板の壓延	153
空氣選炭に就て(承前)	岩田 正五	450	高爐裝入物計算法	175
機械と材料 第 79 卷 第 957 號 昭和 18 年 3 月 12 日			大阪商工會議所月報 第 430 號 昭和 18 年 3 月號	
火力發電設備近時の傾向	今井恒三郎	122	工程管理	岩本 又藏 21
		164	作業改善	吉田 眞三 42
工業化學雜誌 第 46 編 第 2 册 第 540 號 昭和 18 年 2 月			生産技術 第 29 卷 第 3 號 昭和 18 年 3 月生産増強	
アルミナ坩堝及び皿に関する試験報告		202	と工場審察の實際	竹谷 勢一 10
機械技術 第 31 卷 第 3 號 昭和 18 年 3 月			金屬理論の發展 (25)	野呂 道夫 22
空氣液化器から大量酸素製造装置まで	須貝高麗夫	123	鑄物の缺陷とその除去法の一端に就て	28
勞力節約機械(二十八)	小林 潔臣	127	日立評論 第 26 卷 第 3 號 昭和 18 年 3 月	
切削及びドリル作業と潤滑劑(三)	佐藤 安正	135	特殊鋼の焼入性に就て	芥川武, 原田健重郎 160
大日本鑛業協會雜誌 第 51 集 第 603 號 昭和 18 年 3 月			東芝研究時報 第 18 卷 第 3 號	
鋼板に對する珐瑯の融着に就て (第 1 報)	入江辰雄, 澤井郁太郎	154	亞鉛鍍金層の厚さ測定に関する一提案	高橋 粹彦 149
動力 別册 65 昭和 18 年 2 月			色の研究 (第 10 報)	東堯, 梅川梅 163
炭粉ターゼル機關		1	耐火材料 第 7 卷 (二) 38 昭和 17 年 5 月	
動力 82 昭和 18 年 1 月			珪石煉瓦の配合粒度に就て(第 3 報)	
高壓容器熔接部の X 線検査	黒川 常夫	38	高良義郎, 荒木寛美, 高島桂	73
小倉發電所微粉炭機連絡管に就て	吉井嘉市, 中西 孝	92	フォルステライト耐火物の研究(第 1 報)	森 泉 89
殖産調査月報 第 58 號 昭和 18 年 3 月			各種のガス中に於ける加熱より加熱よりカオリンに含有	
鑛業		39	されてゐる Al ₂ O ₃ の溶解性に就て	橋本 忠 譯 107
企 畫 第 5 卷 第 5.6.7.8 號 昭和 17 年自 5 月至 8 月戦			1940 年に於ける耐火物の進歩	池ノ上典譯 122
時に於けるドイツの石炭經濟		95	熔鑛爐用耐火物に就て	兒玉勝三譯 128
東芝研究時報 第 18 卷 第 1 號			業 界 雜 報	
光源及び照明		54	○昭和 18, 19 年の生産を増強すると共に恒久的對策も樹てると岸	
			商相が下院で言明した 京日 0223.	
			○増産のため内地熔鑛爐を華北に移し屑鐵を強力に回收する. 又産	